

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和4年4月)

～まん防の解除による人流増加等で、現状判断は2か月連続の上昇～

- 景気ウォッチャー調査・4月調査の近畿地域の結果は、現状判断が50.6と前月比で2か月連続の上昇となった。先行き判断も49.2と3か月連続の上昇となっている。
- 足元の景気については、3月のまん延防止等重点措置の解除に伴い、飲食や宿泊、百貨店などで客足の回復が進んでいるほか、全体的な人流の増加が入学・卒業に伴うモチベーション需要を高める形となった。
- ただし、ガソリン代や電気料金その他、食料品といった生活必需品の値上げが続く中、マインド面はもちろん、実際の売上にも影響が出ている。折からの急激な円安の動きがこれらに拍車をかけており、消費の回復は力強さに欠ける形となっている。
- 一方、ロシアのウクライナ侵攻による影響も、徐々に広がりつつある。円安の動きと相まっての各種コストの上昇に加え、サプライチェーンの混乱による部品不足といった影響を中心に、幅広い業種から多くの声が上がっている
- 先行きについては、コロナ禍の落ち着いた動きを予想する声が多く、3回目のワクチン接種、経口薬の効果への期待もあり、飲食や旅行関連を中心に、一定の回復を見込む声が聞かれる。一方、円安の影響を不安視する声とともに、物価の上昇に対する懸念は高まっており、消費者の所得環境の悪化や、企業収益への悪影響を心配する声は非常に多い。
- さらに、ロシアのウクライナ侵攻による影響については、先行きが見通せないだけに不安の声は非常に大きい。物価上昇の加速や、原材料の不足、サプライチェーンの混乱など、幅広い動きが出てくるとの声が多く、今後の最大のリスク要因として、引き続き警戒が必要と考えられる。

「コスト・物価上昇」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店(特選品担当)	・新型コロナウイルスやウクライナ危機などの影響には、ネガティブな要素が大きい。価格の上昇もその1つである。ただし、金やダイヤモンドの相場が上がり、宝飾品といった高額品の更なる値上げも予想されるため、投資目的も含めて購入する人も多い。足元は宝飾品を中心に高額品の売行きが良く、現段階では全体として上向いている。
		住宅販売会社(経営者)	・物価の上昇で商品価格は上がっているが、動きを控えていた客が動き出している。
	変わらない	百貨店(売場主任)	・今月は目標を達成できる見込みである。ただし、好調な商材は限られており、前年の状況を考慮すると、決して好調とはいえない。コロナ禍による景気の悪化や、ウクライナ危機による物価の上昇などが、消費者の購買心理を悪化させている。それに伴い、不要不急の商品の購入を抑える傾向はより一層強まっている。
		百貨店(店長)	・4月の後半になり、前年比での数値が下がってきた要因には、相次ぐ物価上昇による消費マインドの冷え込みが挙げられる。
		スーパー(店員)	・土物野菜の価格は高いままである一方、良い天候が続いていることで、葉物野菜は値段も下がり、よく売れている。
	やや悪くなっている	百貨店(営業推進担当)	・原材料や食材価格の高騰で、ボリューム層の消費が鈍くなっており、コロナ禍からの回復の動きも鈍化している。
		スーパー(経営者)	・原油や原材料相場の上昇、円安やウクライナ危機による影響が、確実に食品全体の価格上昇につながっている。単価がアップした分、購買点数が減り、割安な商品に需要が向かう傾向にある。物価上昇が続くという考えが浸透し始め、確実に財布のひもが固くなり始めている。
		スーパー(店長)	・ガソリンを始め、食品に至るまで価格が上がっており、1人当たりの買上点数が落ちている。

家計動向関連	やや悪くなっている	スーパー（企画担当）	・原料価格の高騰で、利益の確保がますます難しくなってくるが、これだけ世間を騒がせているコストの増加であるため、ある意味で堂々と値上げができる。ただし、競合他社の動きもあり、安易に値上がり分を転嫁できない状態である。
		スーパー（販売促進担当）	・コロナ禍が落ち着きを見せ始め、中食から外食への回帰傾向がみられるほか、原油相場の高騰による商品価格の上昇で、買い控えの動きも見られる。
		家電量販店（企画担当）	・ウクライナ危機によるエネルギー不足の影響で、電気代やガス代が高騰し、食料品を中心とした生活必需品の値上げも続いている。家電などの耐久消費財では買い控えが増え、需要が抑えられている。
		その他専門店 [宝石]（経営者）	・円安の影響であらゆる物価が上がっており、電気やガスなどの生活必需品の価格も上がっているため、生活に大きな影響が出ている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数はピークアウトしたものの、減少の動きは想定よりも緩やかであるほか、原油価格の高騰が長期化しているため、景況感は3か月前よりも悪化している。
		その他住宅 [情報誌]（編集者）	・新築住宅価格の上昇が更に加速し、購入できる層とできない層の二極化傾向が広がっている。金利の上昇が更に表面化すれば、市況の急激な落ち込みにつながりかねない。
	悪くなっている	住関連専門店（店長）	・輸入業では、燃料費や輸送コストの増加もさることながら、極端な円安の長期化で大打撃を受けている。努力によって販売価格を抑えられる範囲を既に超えている。
企業動向関連	なっている やや良くなる	金属製品製造業（経営者）	・3月は新年度に向けた計画がスタートしたほか、年度末の追い上げで荷動きは活発であった。ただし、5月以降は材料価格を始め、資材価格の上昇などで動きが鈍くなるのが心配される。
		変わらない	化学工業（管理担当）
	輸送用機械器具製造業（役員）		・制御部品の納期の延期で、受注案件に占める年度内の売上比率が例年よりも下がっている。さらに、鋼材価格の上昇については、販売価格に転嫁しにくい。
	建設業（経営者）		・コロナ禍やウクライナ危機の影響で、建設資材価格の高騰や、納期の遅延が更に大きな問題となっている。特に、ウクライナ情勢は先行き不透明で、建設資材の原料調達などにも影響が出ており、建設工事の工期にも影響が広がっている。
	金融業（営業担当）		・燃料価格のほか、諸物価の上昇により、受注が伸び悩んでいる。
	やや悪くなっている	その他非製造業 [商社]（営業担当）	・引き合いは増えているが、材料が入ってこない上に、価格の上昇による悪影響が出ている。
		繊維工業（総務担当）	・円安やウクライナ危機の影響で、原材料価格の上昇が続いており、取引先からは15%の値上げを告げられている。その一方、販売価格への転嫁はなかなか進まず、コスト高が利益の圧迫につながっている。
		化学工業（経営者）	・円安と資源価格の高騰による影響が出ている。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・円安やウクライナ危機による原油相場の高止まりで、当社も原材料価格や物流コストの値上げを要請されている。それに伴い、当社の取引先にも値上げを要請せざるを得ない状況である。現状では、値上げに対して理解が得られているが、大幅な値上げはできないため、コスト高を吸収できている。将来的には収益の圧迫につながると予想される。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・仕入価格が高騰しており、販売価格への転嫁を進めているため、受注に影響が出ている。
金融業（副支店長）		・コロナ禍の影響は限定的であるが、ロシアのウクライナ侵攻による原油価格の高騰などの影響が、他の消費財にも広がりそうである。飲食店などからは、消費者の財布のひもが固くなるといった声が出ている。	
その他非製造業 [衣服卸]（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除になり、全国的に人出が増えてきた一方、物価の上昇で買回品に対する財布のひもはかなり固くなっている。店頭でのアパレルや身の回り品の販売点数は、前年割れの状態で推移している。		

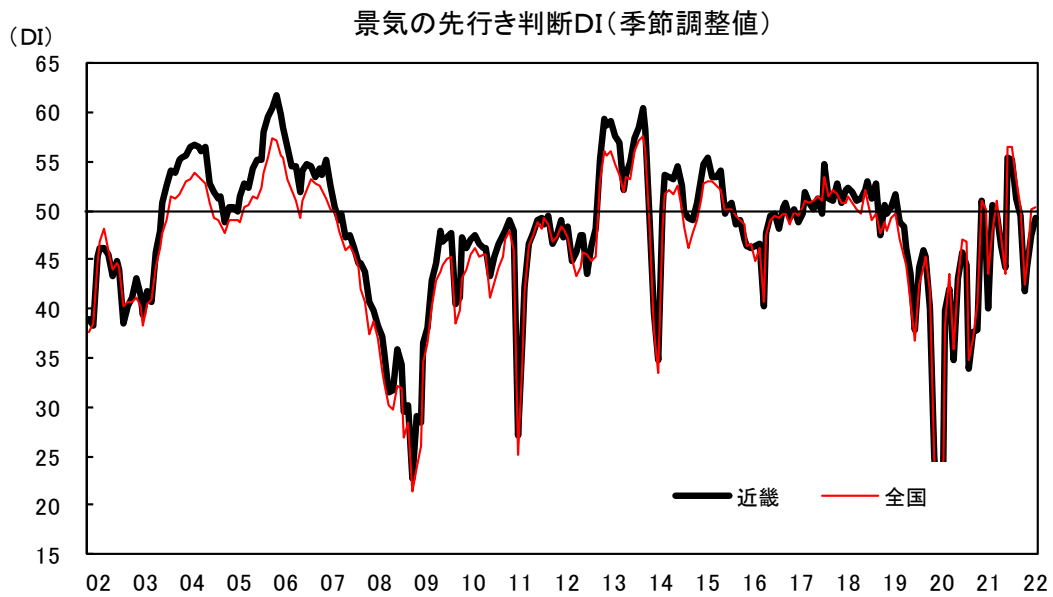
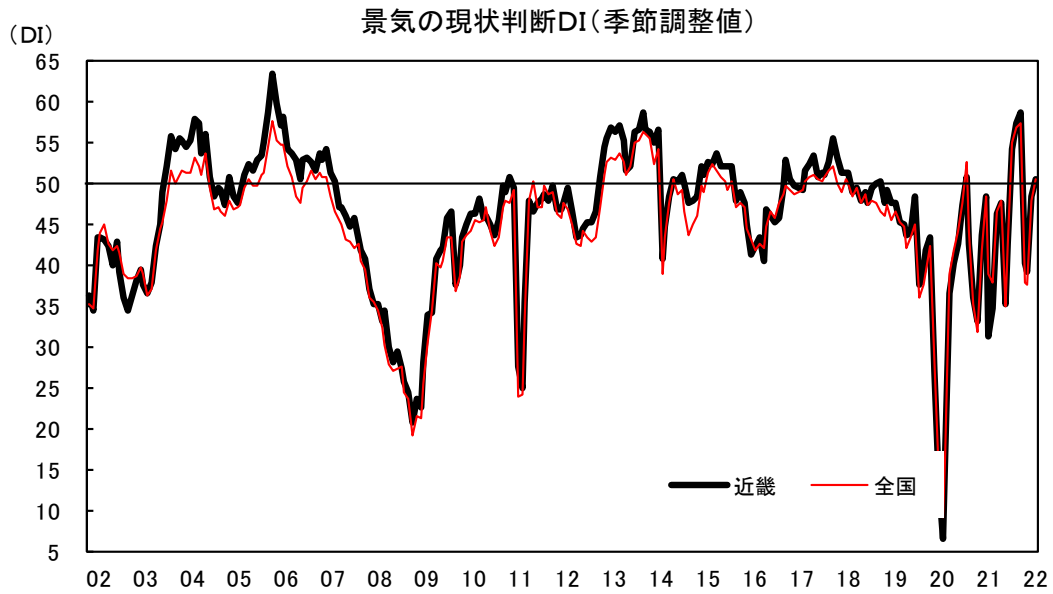
「ウクライナ危機」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	やや良くなる	百貨店（売場マネージャー）	・円安の進行や、原油、原料価格の上昇、更にロシアのウクライナ侵攻もあり、景気はまだ回復に向かうとはいえない。ただし、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、客が旅行や買物などで外出できる安心感が出てきたことで、消費は上向くことが予想される。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの感染が収束し、人流や営業時間も元どおりになり、周りの飲食店の売上も回復に向かうことが予想される。ウクライナ危機に関しては、終息を迎えることを願っている。
		観光型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの影響に加え、ウクライナ危機の影響で物価が上がるなど、余り先行きに明るい希望はない。ただし、コロナ禍がある程度収まれば、人の動きは出てくる。

家計動向関連	や や な る 良 く	その他レジャー施設 〔イベントホール〕 (職員)	・コロナ禍の収束の動きはないが、一定の落ち着きが見られることから、人の動きが活発化している。今後はロシアのウクライナ侵攻による物価の上昇が、賃金に反映されるかどうかにより左右される。
	変 わ ら な い	一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・コロナ禍がどのように推移するのか予想できないほか、ロシアによるウクライナ侵攻もあり、物価がますます上昇することは目に見えている。そのような状況で、生活必需品ではない衣料品の販売が伸びるとは思えず、まだまだ苦しい状況は続く。
		コンビニ(店員)	・新型コロナウイルスの感染状況も落ち着きつつあり、若干景気も上向きになってきたが、ロシアのウクライナ侵攻による影響が、徐々に我々の生活にも出始めている。
		乗用車販売店(販売担当)	・ウクライナ情勢が落ち着かない限り、原材料費や燃料費の増加は続く。
		都市型ホテル(総務担当)	・行動制限の段階的な緩和による消費の活発化が見られるものの、新型コロナウイルスの感染状況の収束が見られないほか、ウクライナ危機の長期化や物価の上昇による影響が、消費マインドの悪化につながる。
		その他レジャー施設 〔複合商業施設〕(職員)	・まだコロナ禍も収束していないなか、ウクライナ危機の推移は見通しが立たず、エネルギー価格の上昇や急激な円安傾向を含めて、当面は不安定な状況が続くと予想される。
		住宅販売会社(経営者)	・ウクライナ危機や為替の変動といった不確定要素は多いが、住宅需要の極端な落ち込みはないと予想される。
	や や 悪 く な る	一般小売店〔事務用品〕(経営者)	・様々な値上げやインボイス制度などへの対応、ルールの複雑化に加え、ウクライナ危機による影響もあり、商売がやりやすい環境になるとは思えない。
		一般小売店〔花〕(経営者)	・現時点では景気は目に見えて悪くなっていないが、ウクライナ危機の影響が、仕入価格や燃料価格といった経費の値上がりにつながり、経営にも徐々に影響が出てくる。コロナ禍の影響も不透明であるため、先が読めない。
		百貨店(売場主任)	・コロナ禍の影響よりも、ウクライナ危機や円安による物価の上昇で、経済が悪化しそうである。この2年間でコロナ禍による経済の疲弊が進み、企業の体力が弱くなっている。所得が増えないなかで物価が上昇した場合、一部の業種での業績悪化や、消費者の購買意欲が低下することは間違いない。
		スーパー(経営者)	・好調な企業の決算発表でも、今期の見通しは前期よりもかなり控えめになっている。物価の上昇に賃金の上昇が追い付かず、特に年金生活の高齢者世帯は打撃を受ける。ウクライナ危機の長期化も予想されるなか、日々の生活で少しでも出費を減らそうとする圧力はますます強くなる。
		スーパー(店長)	・コロナ禍が落ち着きみせれば、外出が増え、消費は増えると予想されるが、それ以上にウクライナ危機による物価の上昇が消費のブレーキとなる。
		コンビニ(店長)	・コロナ禍が長引いているほか、ウクライナ危機や円安の影響で、ほぼ全ての商品が値上げされている。今後は買い控えや商品の入荷の減少など、マイナスの要素しか思い浮かばない。
		家電量販店(店員)	・一部の家電では生産できない物もあるなか、今後はウクライナ危機などの影響も出てくる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経理担当)	・ウクライナ情勢の先行きは不透明であるほか、原油価格の高止まりによる景気への影響が、これから徐々に出てくる。
		その他専門店〔スポーツ用品〕(経理担当)	・コロナ禍やウクライナ危機が続く限り、好転する期待は薄い。
		一般レストラン(企画)	・ウクライナ情勢が悪化し、こう着化するなか、日本経済への悪影響は更に拡大し、エネルギー価格や原材料価格の高騰が家計を圧迫し、外食への客足が遠のくことを懸念している。また、企業経営にも同様の影響が出ることが予想される。
		通信会社(企画担当)	・今後のウクライナ情勢やコロナ禍の推移が不透明で、インフレの動きも懸念される。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕(経営者)	・ロシアによるウクライナ侵攻がいつまで続くか予想できない。また、原油相場の上昇や円安の動きなど、経済に良くない要素が多い。
	悪 く な る	一般小売店〔貴金属製品〕(従業員)	・ウクライナ危機や円安の影響が出る。
家電量販店(店員)		・ロシアのウクライナ侵攻に伴い、商品価格の高騰が避けられないため、購買意欲も下がる。中国での上海市などのロックダウンにより、入手が難しくなった商品もあり、景気悪化はすることが予想される。	
その他専門店〔宝石〕(経営者)		・ロシアのウクライナ侵攻以来、いろいろな物価が上がっているため、すぐに回復するとは思えない。コロナ禍の影響も心配されるなか、プラス材料は見当たらない。	
競輪場(職員)		・新型コロナウイルスの感染状況は下火になりつつあるが、油断はできない。それに加えて、ロシアのウクライナ侵攻や円安の影響で、様々な物の価格の上昇が続くそうであり、良くなる見通しはもてない。	

企業動向関連	変わらない	プラスチック製品製造業（経営者）	・ウクライナ危機やエネルギー価格の高騰、生産材料の在庫切れなど、マイナス材料を挙げればきりが無い。その中でも必要とされる部品の調達は死活問題であり、今は何とか現状を維持している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・コロナ禍が始まって以降、景気は最悪の状態が続いている。それに加えて、ロシアによるウクライナ侵攻で海外の案件が不安定になっている。この状況はしばらく続くと思われる。
		司法書士	・各種の制限のないゴールデンウィークが始まり、人々は動き始めているが、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に対する不安や、ウクライナ危機、円安の影響もあり、楽観はできない。
	やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・急激な円安やウクライナ危機による更なる原油相場の高騰で、企業収益が圧迫される可能性が高い。以前は、製造業などで円安効果が得られたが、海外生産などの動きが進み、以前ほどは期待できなくなっている。むしろ、輸入価格の高騰が収益を圧迫する傾向にあるため、先行きの見通しはやや悲観的にならざるを得ない。
		通信業（管理担当）	・ロシアによるウクライナ侵攻の動きが終息しないため、経済を圧迫している。
		金融業（副支店長）	・2～3か月後もウクライナ危機は沈静化しないと予想され、身の回りの景気は少し悪くなる。
	悪くなる	電気機械器具製造業（営業担当）	・コロナ禍やウクライナ危機による影響で、材料が入ってこない。
		不動産業（営業担当）	・以前から原油相場が上がっているが、これから更にウクライナ危機によって、原油を含む様々な物の価格が上がってくる。また、円安の影響もかなりの痛手となるため、景気は悪くなる。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・コロナ禍にウクライナ危機の影響も加わり、先行きが全く見通せない。
雇用関連	変わらない	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しつつあるなか、3月の新規求職者数は前年比で9.1%減少している。まだ様子を見ている求職者が多いほか、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギーや原材料価格の高騰で、物価に影響が出始めているため、先行きが不安である。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ウクライナ危機が解決しなければ、状況は厳しい。
		その他雇用の動向を把握できる者	・根強い人手不足感の高まりもあり、企業の求人意欲は強いが、様々な懸念事項があるほか、先行き不透明感も強い。特に、コロナ禍による物流の停滞や、半導体などの部品不足による生産調整、原油や原材料価格の高騰、食品などの仕入コストの値上げに加え、ウクライナ危機といった海外情勢の変化による影響も含め、企業活動に悪影響を与えうる要素について、注視していく必要がある。
	やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻が止まったとしても、経済制裁は継続することになる。新型コロナウイルスの感染第7波の発生や、円安の進行も含めて、今後は好転する要素がないため、景気の悪化が続くと予想される。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・ゴールデンウィーク明け以降、新型コロナウイルスの感染第7波の発生も予想されるなか、ワクチン接種の動きは頭打ちとなっている。ウクライナ情勢も複雑化し、事態の終息の見通しは立っていない。その影響で原材料価格の高騰によるインフレ懸念も高まっているほか、インフレに拍車を掛ける円安も急速に進むなど、国内景気に影響を与える不安材料が非常に多い。これらの要素が一気に解消される可能性は低く、景気はやや下向くことが予想される。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		20年				21年				22年																
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4												
現状判断	近畿	6.6	16.7	36.6	40.2	42.6	47.4	50.7	42.6	36.0	33.2	43.7	48.5	31.4	34.7	46.2	47.5	35.3	42.7	54.1	57.3	58.7	40.3	39.3	48.4	50.6
	(全国)	9.1	16.7	39.0	41.8	44.1	47.7	52.7	44.2	35.3	31.9	41.7	48.5	39.0	37.8	46.5	48.0	34.9	42.3	55.1	56.8	57.5	37.9	37.7	47.8	50.4
先行き判断	近畿	20.8	39.9	42.0	34.8	43.2	45.7	44.4	33.8	37.6	37.8	51.0	46.0	40.0	50.5	49.7	46.3	44.3	55.4	55.1	51.3	49.4	41.9	44.2	47.5	49.2
	(全国)	19.3	38.2	43.5	35.8	42.8	47.1	46.9	34.7	36.9	40.4	51.0	50.2	43.5	48.0	51.1	47.3	43.5	56.6	56.6	53.2	50.3	42.5	44.4	50.1	50.3

※季節調整値